館報
かわべ
（出稼者、就職者特集一号）

発行所　河辺公民館
編集　公民館編集委員会

出かせぎに思う

村長　稲田三郎

人生に生涯の生活見通しがついているならこれほど気楽な事もあるまい。しかしそれが更に人間には欲というものがあり、他人より少しでも派手にしたい。又は財産を作りたいと願うものである。自の一生は自が働いて義務と責任を果し他人に迷惑をかけることなく終らねばならぬことだ。唯先祖から財産を受継げば、これを利用して利益を得る事が出来る。当然この様な家庭が望ましいことだ。然るに資本源の資産を後継者に与え残してゆくのも一つの義務と思われる。出稼に頼つて若い内は生活がどうにか出来、年老いてからは子供の世話になろう等と考える事は、現実の社会では通用しないむきが往々にしてある。先代からもう少し財産を残して置いてくれたらと愚痴をいう人が多いはずである。それが又子が思いそして更に部落、村の不和その又子が言伝えることだろう。目前の現金に迷うことなく出来ることなら長期的な収入源の育成を考えねば将来の不安は免れない事だ。以上の様な点を考えると、今流行の様に言われる出稼も、何時の時代までも続くと言うものではなく、極短期間で現金収入が有ると言うことだが、貯金、或は投資でも出来ぬかぎり老後の安住性は全く無いから矢張り農林業をして生計を保つべき道を選ぶか、或は利の上る転業を望まれる人には、それに対する指導、現在の農業協同組合法等を生かしてゆきたいと思う。

村民の生活安定の基礎作りを行政面では見当し、皆さんは農協、森組を通じて経済繁栄を図つてもらう。この両面が一致協力しなければ、銭無しで家庭の不和。

出かせぎ者とその家庭の福祉のために

民生委員総務　稲森若三郎

此の問題について私が常に留守家庭のいろいろな悩みを考えておる点を簡単に述べてみたいと思います。

現在出稼者の家庭は平均して安楽な生活をして居られるようですが、出稼者の家庭と申しても一様ではありません。一家の主人が出稼に出て妻だけ残つておる家庭、妻と老人が残りまたは妻老人子供が残つておる家庭もあります。

老人と子供をかかえておる主婦の方々は精神的にも、労働的にも過重の負担がかかつて居ると思います。

こうした出稼者の対策及びに皆さんの相談相手となる公民館が有ります。出稼家庭の理由調査、併せて留守家族の生活指導、農林業専業家家庭の養成、離農者対策を根本的に解決するためには国の強力な施策が第一要件だと思いますが、私の考えといたしましては地域的出稼世帯の組織を以つて福祉活動の実践に取り組み、最小限度に努力いたしたいと思つております。

特に留守家庭の老人子供には心から愛の一声といつたような精神的な援助や励ましも大切だと思います。

また留守家族の方は出稼の方に対して、残された老人子供のことや家庭の実情など度々文通して安心して働けるようにつとめていただくことも大切かと存じます。

また出かせぎの方も職場の実態や自分の健康等常に家庭に報らせて常に不安の無い温かな結び付きを深めていただくことが大切だと思います。最後に出かせぎ者の皆さん並びに留守家庭の皆さんのご健康とご多幸を祈りますと共に私達もそれぞれの立場において努力いたすことをお誓いして終りといたします。

なお、手紙を書くことは、生きた国語の学習ともなる。

三、学校は、常にひとりひとりの子供について父親出かせぎの実態を調べておき時々学校からも校報を送る。もし、その父親から返事をいただければ、それを校報にも載せる。

四、愛護班活動の活発化に学校として協力する。

以上、紙数の関係で詳細は尽し得ないが、この問題については学校としても真剣に取り組まねばならないと痛感している次第である

「留守家庭の児童に学校ではこうしている」

大伍小学校長　田中栄

子供にとつては、両親が揃つて家にいてくれることが何にもまして幸せなことであろう。

私が昨年四月、本校に着任して感じたことは、ここの子供に何かきびしさの欠けていることであつた。子供たちは、すなおなようでなんだかだらしないのであり大事なものが一つ

そこで、こゝに出かせぎ家庭、父親不在の問題が生まれてくる。母は常に家業に忙しく、子供を見てやる間がない。いつも、父親がいてくれたら、子供をしやんとさせられるのにと思われるにちがいない。しかし経済上父親の出かせぎは止められないのだ。従つて、学校としては、次のことをお願いしたいわけである。

一、父親の在宅している間に、しつかりと家族会議を何回も開いて、家庭のきまりを作つておいていただきたい。父親がいなくても常にそれが守れるよう約束して、父親が帰つた時、反省会を開く。

二、子供は、月に二回以上は出かせぎ地の父親へ手紙を書く。これによつて、子供の生活は絶えず反省で支えられ、家族の一員としての責任を持つようになる。

父ちやんガンバレ

北平中学校三年　田丸京子

「出かせぎ」、このことばが私の頭の中でうずをまく。今の農業家庭では、田畑の収入だけで生活を豊かにしていく事はむずかしいのか、何人かの人が遠い所に出かせぎに行つておられる。私の父もその中の一人である。年老いた母、妻そして子供を残して働きに行く父はどんな気持なんだろうか。働きに行く十日ほど前から何度も何度も私達にこう言つていた。「母の言う事をよく聞いて、手伝いと勉強をするのだよ。みんなで気を付け合つて元気にいてくれ。父ちやんも一生懸命働いて帰るからな。」父の顔はなんとなくさびしく見えた。

田植えを早く終えて、五月十七日七時二十五分大洲行きのバスにゆられて、遠い新潟へ働きに行つたのです。父の行つた日の夕食のなんとも言いようのない淋しさ。いつもなら父母の毎日の楽しい話しが、又妹達の笑い声が茶の間いつぱいに広がつてにぎやかな食事なのに父がいない家庭なんて火の消えた後のようなものです。母は父の分も働かなくてはいけません。部落のつき合にしんせきのつき合い、家計のやりくり、ひとりの苦労ではないと思いますが。私達には心配をかけまいと何ごとにも笑顔を見せています。父の話しになると淋しさが、なんとなく顔に表れるように思います。

私の父は大分の日田という所に働きにいつている。父が出かせぎをするようになつて約五年間くらいたつが初のうちはなれない仕事で大変つらかつたそうだが、今はだいぶんなれて、そうつらくもなくなつたという。しかし、ぼくたちには想像できないような苦しい生活だからせめて家にいるときくらい楽しくすごさせてあげたい。だが、家に帰ればそれ畑の手入れだ、それ田植えだというように休むひまがない。しかし、父は少しも疲れた顔を見せず働いている。何か言いたくても声にも出さず一生けんめい働いている父の姿は、まるで鉄のかたまりのようだ。何をするにしても父のいるといないかは大ちがいであんと仲良く話しているのを見ると、なんとなくうらやましく思い悲しくなることさえあります。こうゆう宿命かもしれませんが、もし河辺村で働く所が出来るか畑で良い収入があれば家族一緒に暮らせるのではないだろうか。一日も早く父と暮らす日を待つばかりです。

出かせぎ者に訴える　ご健康と幸せを

皆さんご苦労さんです。秋も深くなりました。ふるさとの模様は「ふるさとのスケッチ」をよくよんで下さい。お元気ですか、益々ご健かで、心もさわやかにご精励下さるよう心から祈つています。次のことがらを皆様にうつたえたいと思います。どうかよろしくご健康には特に注意して下さい。悪くなつてからでは誰が看病してくれますか。ご家族のご心配の種はあなたの健康でありましょう。

二、色々な災難にかからぬ細心の注意をして下さい。最近出かせぎ者の中には最悪の災難にかかる人もあります。不断から仕事そのものに十分注意して高い所、危険な作業、機械による事故等々こまかく注意して下さい。

三、労災保険、失業保険には必ず加入して下さい。この保険は労働する者の絶対条件です。万一の場合を考えて下さい。悲惨なことにならぬよう十分考えて、今すぐ加入して下さい。

四、生命保険にもつとめて加入するようにして下さい。あなたは今は荒ぜにが入りよるのです。年に三万四万の掛金にお困りとも思えません。どうかつとめて入るように致しましょう。

五、通信（手紙電話など）を度々して下さい。お忙しく書く間もないでしようが、留守を守つていらつしやる奥様にご父母様に、お子供さんに心と心をつなぐお手紙を。お声をかけて下さい。ふるさとのお便りがうれしいように、あなたよりの便りをおるすの人達も同様まつておられます。

六、收支の記張生活と、送金は早めにしたいものです。るす家族の方も、出かせぎ者の方も共に記帳生活はよいことでしよう。労賃を受けとられたら早めに送り、記帳のもようを伝えてすきのない生活をする。そしてるす家族の方も同様にして、尊い汗の代償を内では無駄使せぬようにするのがよいと思われます。

七、「悪友は友を滅ぼす」といいます良友を求める。悪い友だちができると、折角の苦労が消えてしまつたり、ぬきさしならぬひどい目に合つたりします。よい友だちを求めましよう。悪い友とは早く縁を切りましよう。

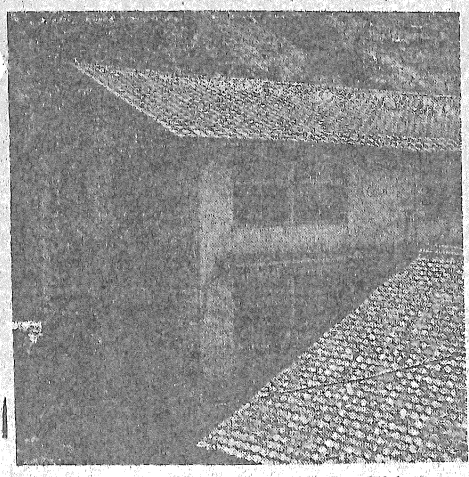
八、職場を変られるときは必ず職業安定所を通じて変つて下さい。働く条件が違つていたり、甚しく不衛生或は危険賃金を支払わない場合などがあつてもしろうとの世話では仕様のないことがあります。

九、公民館として出かせぎ者に何をなすべきか。ご遠慮なく申し出て下さい。お手紙いただきたいのです。おるす家族の会を開きたいと思つています、その会で色々協議しまして、出かせぎの皆さんが安心して働いて下さるよう取り計らいたいと思つております。

註　本館報は出かせぎ者就職者への特集号です。

N記

本年2月5日少年式が河中で行われた。稲田村長、向井社協会長（議長）へ中学二年代表の謝をのべているところ



公使元農事センターを村が買收して2階と下半分を公民館　下うら半分は増設をして給食センターに使用している

大洲駅発	河辺行バス
国鉄	
7、20	一の瀬
12、40	山王
15、25	一の瀬
16、25	山王
17、40	一の瀬

でかせぎのお父さん げんきではたらいてね

大伍小学校三年　岡林恵子

この間田うえに帰ったばかりのお父さんが、また七月四日に遠い遠い長野けんというところに行かれた。

お父さんがはたらきに行かれる時は、いつも、「おまえたちもいつしょうけんめい勉強しなさい。お父さんもがんばつて帰るからなあ。」とやさしくいわれるこんなやさしいお父さんが、いつも家にいてくれたらなあと、わたしは思う。

お母さんは、「おぼんにはお父さんも帰るし、ねえちやんやにいちやんも夏休みで帰るし、家の中は明るくにぎやかになるなあ。」といつて、お母さんも、たいへんまつておられる。

お母さんは毎ばんのように、こちらのようすを、くわしく、手紙に書いて、知らせておられる。

お父さんからも、二日にいつているのに、おとうさんは一どくらいは、あちらのしごとのようすや、家のことや、わたしたちのことを、気づかつて、手紙がくる。

おぼんには、帰つてこられる。おぼんまで、もう、二十五日ぐらいだ。

やさしい、だいすきな、わたしのお父さん、早く帰つてきてください。まつています。

北平小学校五年　梶川サエ子

お父さん、早くかえつてきてください。いつもかえるとやくそくしておいて、かえれなくなつたといつてうそをついて、かえつてきてくれない。お母さんはこまつてしまつている。お父さんが家のたいせつな人だから、家のことも考えてほしい。お金も、もうすこし送つてもらいたい。おとうさんは、お母さんや、わたしたちを忘れてしまつているのですか。えみ子ねえちやんや、まり子ねえちやんは心配して、二年間一生けんめいに働いたお金二万円も送つてくれた。ねえちやんたちは、そんなに心配しているのに、おとうさんはかえるかえるといつて、もう半年もかえつてこない。お母さんは、おとうさんが帰るといつてくるから、よへ行つては泳いでいます。色もだいぶん黒くなつてきました。おとうさんもだいぶ色も黒くなつてふとつたことでしよう。祖父、祖母、母、妹なども元気でいるようにとゆうことです。早く帰つてきて下さい。まつています。

河辺小学校六年　土居由美

わたしのおとうさんは、去年から名古屋へ出かせぎに行つています。おとうさんが帰る時といえば、お正月、おぼんくらいです。わたしは、お母さん、弟、妹たちといつしよにくらしています。おとうさんは、わたしたちと遠くはなれて、働いては、お金をため、わたしたちの生活がやれるように送つてくれます。もしおとうさんがいなくなつたらどうなることでしよう。わたしは、ラジオやテレビで事故のニュースなどを聞くたびに心配でなりません。去年の三月ごろ、おとうさんがガス中毒にかかりました。わたしたちにそのことがわかつたのは、おとうさんが、病院にはいつて一週間後の手紙でした。それを見て家の中は心配でなりました。わたしは、おとうさんがペットの上にねて苦しそうな顔でこない。おとうさんに、わたしたちの気持ちを知つてもらつて、帰つてきてもらいたい。おとうさんは今頃電話もかけない。でも、家のことを考えているような顔でした。

5月12日大洲警察署長外三名村内各種団体役員等集合して村民総ぐるみの生活安全大会を公民館主催で催した壇上は村長の式辞である尚同集会では出かせぎ者の安全や家族対策等も話し合つた。

就職者の皆様へ捧げる

親のひざ元を離れて始めて味わう他郷の飯。それは笑顔でたべることもあり、涙と共にたべられたこともあつたでしよう。

世の中は喜悲こもごもの経験をつんでそしてそれが吾が身の幸となるものです。君たちの将来への栄光は今青春のときにそのいしづえが築かれることに心すべきでしよう。未来に洋々たる希望と栄光を信じ、つたない一文を箇条書きとして捧げて拝する。

一、健康第一

健康は人生の宝である幸福の根源です。体をどうか大切にして下さい。

二、恋愛も結婚生活も種族保存の本能である。

これがなくては人類は滅びてしまう。しかし誤解しないで……それは人間としての幸福のためにあるのです。失恋、不信用、受胎、悶悩……不用意なそれが、幸福をこわすことがあるからご用心を。

三、心配ごとは父母へ先輩へ相談するがよい。

世の中はふく雑でかつ微妙にできている。色々な心配ごとに出会うものだ。経験と思慮が豊かでないと解決し難いことが多い。必ず一人できめてしまわず、他人に相談するのが賢明です。

四、若い人には学問又は勉強が飯より大事です。

年老いての勉強では間に合わない。月に一冊の有益(自分を幸にする)な本を精読するようにお奨めします人には向上の本能がある。社会には進歩がある。日新日進の世の中だ。世に取残されぬよう、自身の工夫と努力が肝要。

五、良友をえらべ

悪友は友を滅ぼす。早く縁を切りなさい。青春の良友こそ将来の力であり、幸をもたらすであろう。

六、就職の皆さん。思いを故郷にはせて下さい。

二十年になんなんとする永い間を養育して下さつた父母がいる。昼も夜も君たちの健康と幸福を祈つている。神仏にも祈つているに相違ない。君たちのその身その心。皆御父母の愛育のたまものである筈だよ。人間身は父母の手作りでこしらえたような粗末なものでは決してない。大自然のたえなる力によつて産まれたのである。君のような美しい体と心をみるがよい。

父母の手ざいくや、技術ではちと複雑精巧微妙な能力が有り過ぎるではないか。父母を思い体を思い生命を思い極々大切にして下さい恩返しのできない人間ではない。

七、父母への通信と仕送りを忘れないように

健康だということだけでよい父母もあなたもお便りを望んでいる。少額でもよい月々仕送りすることを忘れないでほしい。

八、技術を身につけ精進してほしい

技術は君の将来を明るくする。若い時代に習得しなくては老いては駄目である

九、成功とは努力という球根から咲いた花である

努力なくして花は咲かない。辛棒は金なりともいう。ねばり強い努力が成功への近道である。

十、労災は元より失業保険程人間社会には暇はないはずである。一歩二歩前進して下さい。そこには「すすき」が君の気持ちの悪さをすすぐかのように秋風にゆられている。よく根本をみたまえ。リンドウの花がニヨツと花ほを立て。いるであろう。

◎花となり実となるみれば草や木もなべてつとめはある世なりけり

◎一すじに心定めよ浜千鳥いづこの浦も波風ぞふく

◎いかならん事にあいてもたわまぬはわが敷島のやまと魂

ふるさとの スケッチ

××××

九月七日より全校(小中保)給食

新調された給食配給車にのつて、北平方面の昼前の光景をたずねてみる。

河本製材の鋸切りの音が耳をつく。杉の木のにおいがはなをプーンと通る。鴨谷は二割方寺蔵は刈り始まりで田の片すみには子わらの遊ぶ姿もみえる。車は道路の上にのぞいている。もう昼前時。昼の仕たくに帰るのか、熊坂橋の中央辺の近くへ来た。パンの一つも投げ与えたいが相にく余分は一ケもない。炊事場の運動場よりの辺に大台があつてそこへ、各学年別に容器をおろして引上げる。

北平中学校

竹の瀬のしものカーブを廻ると、竹の瀬橋が目に入る。あと十日するとお祭である。あの橋におのぼりが立つとながめは全く最高だ川向いの田は稲刈が始まつていて四人ばかりが忙しい動きようである。北平中学校は校門横のロツカロへおろすようになつている。クラクションをならすと、ローカから首を伸ばして目をパチクリさせながら大野ブク子事務の先生が出てくる。やわらかい物腰で笑みをたたえた白い顔が印象的。「お世話になりました」と鈴のような声にはげまされて次々とおもたい箱をおろす。北平の校門近くには松本幸三郎氏の碑がある。台の周辺には赤黄の鶏頭が数十並び咲いている。松本翁は村の造林及び行政財政の恩人としてその徳を賛えるための碑である。北平小学校の地元校下負担が入らなかつたのはこの恩人のたまものである。ここも授業中、シンとした秋のたたずまいの中に時折り先生の質問に答える元気な生徒の声がありありときこえる。

大伍小及び保育所

大伍保育所へつく。河本先生がニコ〳〵として出て来る。「昨日は有難うございました」という。相変らず口を横広くあけて真白い歯がのぞく。若さ一杯の美しい先生である。昨日は十三日、十二日から一日二泊の役場職員が松山及び奥道後方面への研修旅行であつたので、今日は帰つてからたので、今日は帰つてから始めてのご挨拶である。船田所長も「ご苦労さん、疲れてやしまへんか」アツハツハー」とやつて、ほがらかなあいさつの内にも手には忙しく、パン箱、牛乳箱オカツかん等の重いものが運ばれている。

大伍保育所は元建設省の出張所だつたが、トチノキゼの工事が完了して引き上げたので村がそつくり買収して事務所を保育所にその他は教員住宅などに転用している。この保育所児は十五人である。丁度授業中なので子供らの給食をまつうれしい顔は見られなかつた。

大伍小学校へ行く。ここも授業中だ。校庭の青桐の葉が目立つ。その根もとの処でポツペンと行儀よく座つた犬、給食車がつくとその近くへ来た。パンの一つをこちらへ通つていた老婦人を後から狸色の犬が橋の上をことさらに走つて通りぬけた。

喜多郡及大洲全体での枝打コンクール大会に横山上久保幸代氏が第一位になつた城戸指導員及森組の指導のよろしきをえて